

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		クオリティ・オブ・ライフ船橋支援教室				公表日	2025年 3月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	0%	100%	全員が個別の机で座れるよう机やプレイエリアの配置を工夫している。	全体的にスペースが狭い。10名であればよいが、それ以上の人数だと無理がある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	60%	40%	スタッフ間で連携をとり、運営できている。	もう1名運転できるスタッフがいてもよい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	安全に配慮して危険な箇所をクッションなどで覆っており、色など目でエリアを区別できるような工夫をしている。	手すり等がない。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	活動に合わせて机の配置を変えるなど工夫している。清掃は毎日行い、必要に応じて細かい清掃もしている。	感染症対策として空気清浄機を設置できると良い。またはサーキュレーターなどを用いて空気を循環させると良い。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20%	80%	仕切りなどを使用して空間を区切るなどして工夫している。	教室のスペースが狭いため個別の部屋がない。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	職員全員から改善に向けた提案を受け、積極的に改善を試みている。	改善策を実施後その評価をし切れていない部分がある。また、改善に着手出来ていない箇所もある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	保護者様より定期的にヒアリングを行い、療育内容に反映している。	引き続き保護者様と情報共有を図る。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎日ミーティングを行い、自分の抱えている業務と困っていることを話し合ったり報告する場を設けている。	連携が上手くいかない場合の原因を考え、改善につなげたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	60%	40%	相談支援事業所などから当事業所について評価をいただくことがある。	外部からの評価を受ける機会を設けたい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	各委員会の内容について、全職員が研修を実施し報告書を作成している。	訓練についてもう少し回数を増やしていきたい。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	80%	20%	全職員で共通の目的を持ったプログラムとなるよう現在作成中である。	公開予定なので、期日までに公開する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	送迎時に保護者様に療育に対するご要望や相談をお聞きし、計画に反映している。	より客観的に評価できる指標(外部のテストなど)を取り入れて計画を行いたい。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	全職員が個別支援計画の策定会議で意見を出し合い、支援内容について共通の認識をしている。	引き続き全職員で支援計画について話し合いたい。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	支援内容について全職員が共通の認識をしている。	引き続き支援の方法について話し合いながら計画に沿った支援を続けていきたい。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	80%	20%	日常的にスタッフ間で子どもの適応行動について情報共有している。	統一の機械的な基準などで評価を実施していることが少ないため、導入を検討したい。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	各内容について全職員で検討しながら、設定できている。	引き続き、各項目について多角的な視点から計画を策定していきたい。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	プログラムの提案から計画、実行、反省まで全職員で情報を共有できている。	スタッフ間の連携を強化し、より良い計画を作っていきたい。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	全職員から様々なアイデアを出すことが出来ている。	引き続き様々な活動を取り込めるようにスタッフの意見を募りたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個別活動と集団活動を組み合わせ療育を行っている。	集団活動のタイミングについて難しい場合もあるため、個別活動の時間も考慮して計画していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎朝ミーティングを行い、必要な情報共有をしている。	報告、相談などより率直な意見が出せるような環境を作る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	80%	20%	送迎時に得た情報などを共有している。	毎日行っているというわけではないが、必要に応じて情報共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	毎日記録し、その日の支援内容が後日見返せるようにし、一本化した療育につながるようにしている。	記録の内容が読み手によって捉え方が異なる書き方をしてしまうことが無いように気を付けたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者が定期的にモニタリング・面談を行い計画の改善を図っている。	引き続き必要に応じた計画の改善を図る。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	様々な角度から療育につながる活動を計画している。	地域交流の機会の提供について少し足りないため、強化を図りたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	選択肢の量、質、選び方などを工夫して、子供のしたいことを実現できるようにしている。	オープンな選択肢では選べない子に対して、適宜選択の幅を狭める支援も行いたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者など子供の特性を理解した者が会議に参加している。	児童発達支援管理責任者に業務が偏っていることがある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	80%	20%	学校との連携は行えており、子供についての情報共有を必要に応じて行っている。	医療機関などについて、連携の機会がすくないため、挨拶に伺うなどして有事の際にスムーズな連携を図れるようにする。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	子どもについての情報共有を必要に応じて行っている。	送迎時間が前後した際に臨機応変に対応できるよう、引き続き学校や担当の教諭と連携していきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	20%	80%	保護者様を通じて就学前の状況を伺っている。	就学前の状況や放デイでの状況をお互いに伝えあえると良い。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	20%	80%	卒業を迎える利用者様に対して、進路についての情報提供を必要に応じて行っている。	高校卒業以上の利用者様がまだいないため、就労についての連携は未だとれていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	20%	80%	地域の早期発達支援コーディネーターより助言を受ける機会がある。	地域の児童発達支援センターとの連携が図れない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0%	100%	他の放デイなどとの交流を図ろうとしている。	地域の放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会を設けられると良い。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	地域の放デイ振興部会や相談支援事業所との協議会へ参加をしている。	設けられた協議会などへの参加を積極的にしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	送迎や面談時に子どもの様子を共有し、療育の改善につなげている。	些細な変化も保護者様へ共有し、課題の共有に努めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	80%	20%	自治体からの家族向けの研修機会について情報を共有している。	自社で研修機会を用意することがないため、今後の課題としたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に保護者様へ紙面と口頭で説明し、随時ご質問を受け付けている。	年度初めのタイミングで書類の更新と併せて説明や質問を受け付ける機会を設けたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	定期的な面談などで保護者様の意向を確認している。また、利用時に子どもの意思をヒヤリングしている。	保護者様と子どもの両方で意思が異なるときの対応について、より良い選択が取れるよう各方面と連携を図りたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	契約時や面談の際に責任者から説明を行い同意を得ている。	保護者様と計画内容について連携できるよう引き続き丁寧な説明を行う。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	送迎時などに保護者様からご要望を伺い支援に反映している。	傾聴の姿勢を崩さずに保護者様に寄り添う意識をしっかりと持っていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	60%	40%	説明会など保護者が集まる機会を設けた。	保護者同士が交流する機会は少なく、またきょうだい同士が交流する機会は設けていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	連絡を受けてすぐに職員間で対応を話し合い、統一した意思の下迅速な対応が出来るようにしている。	保護者様へ緊急時連絡が取れない可能性も考え、連絡手段について検討を進めたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	通信やInstagramの更新を定期的に行い、情報発信を積極的に行っている。	掲載内容や発信手段などについて、より確実に保護者に届くよう検討を進めたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	管理場所、管理者を定め責任の所在を明らかにし、全職員に取扱いに注意するよう徹底している。	子どもの写真に関して配慮に欠ける事案が発生した。社内での認識の統一に努めたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	伝達方法についていくつかの手段を用意し、子どもや保護者様のご要望に沿ったものを活用している。	子どもに対する意思疎通のバリエーションを増やし、スタッフと子どもの両者に良い方法を選択できるように努めたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20%	80%	子どもたちが地域の文化などを知る機会を設けている。	地域住民を招待する行事などは未実施である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各委員会でごマニュアル作成を行い、訓練を実施している。	訓練について保護者様も含めた訓練を行えると良いと考える。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	各BCPを策定し、内容に沿った研修訓練を行っている。	非常時用の備品整備について引き続き進めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	基本情報確認シートにて保護者様より情報を頂いている。	有事の際に対応できるよう服薬予防接種についてシートの情報に基づき詳細なヒヤリングを行いたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	アレルギー一覧表を作成し、全職員がすぐに確認できるようにしている。	課外活動やおやつ提供の際に、引き続きアレルギー等に配慮していききたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	定期的に安全点検を行い、安全管理を行っている。	点検時に確認された異常について速やかに対応していききたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	80%	20%	必要な情報を保護者様に伝へ安全確保に努めている。	情報提供以外で、保護者と連携した取り組みが行えていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットを記録し、その日のうちに事例に対して検討を行うようにしている。	再発防止に向けた対応が「声掛け」にとどまることもあるため、繰返し発生する事案については別の再発防止案を検討したい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止の研修を定期的に行い、未然防止に努めている。	社内だけでなく外部の研修機会も活用して、虐待の防止につなげたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	社内で決定された方針に基づいた資料を用いて保護者様へ説明を行い、了承を得ている。	身体拘束が発生した際に、その状況や判断理由などを適切に説明できるように想定した研修なども行いたい。	